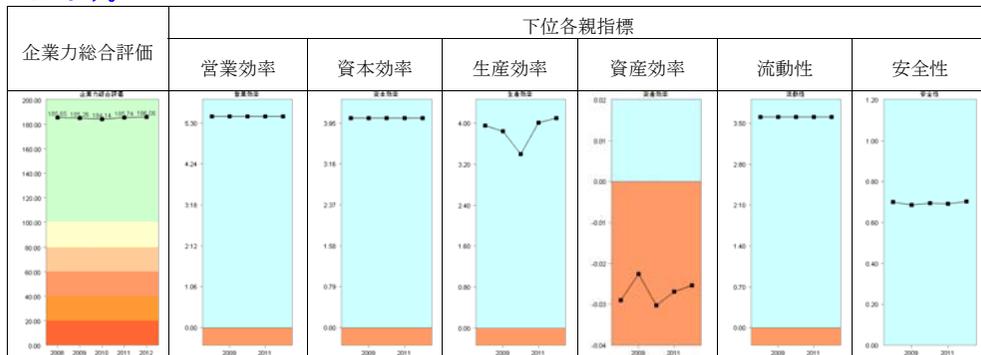


今回は、㈱日本M&Aセンターを分析しましょう。現在、2012年問題の最中です。多くの日本企業が後継者問題を抱えています。団塊の世代の社長が引退し、その後継者がいないと言われています。



企業力総合評価は、185.65→185.26→184.14→185.74→186.06。なんと素晴らしい数値でしょう。

営業効率（儲かるか）、資本効率（資本の利用度）、流動性（短期資金繰）、安全性（長期資金繰）は天井値です。つまり、すごく儲かっていて（営業効率）、利益がたくさん貯まり（安全性）、資金がたっぷり入ってきています（流動性）。

生産効率（人の利用度）もほぼ天井値です。

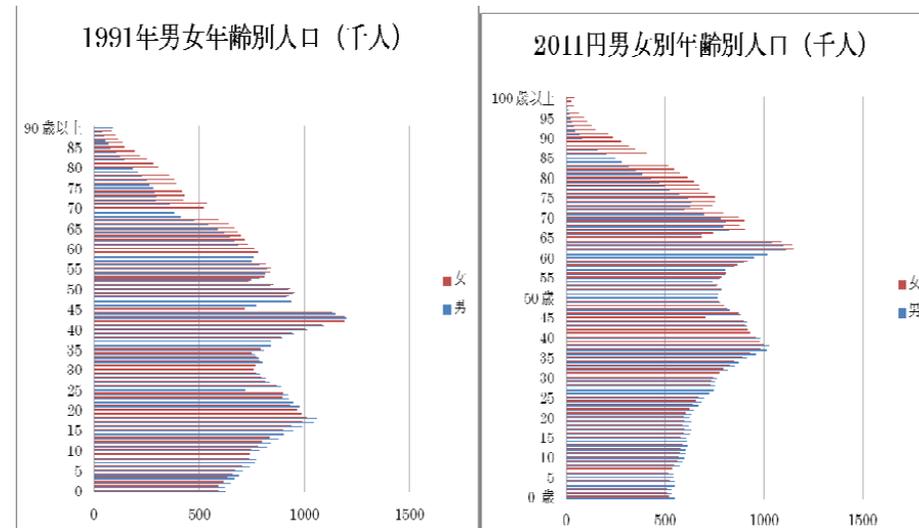
資産効率（資産の利用度）は、5期連続赤信号領域ですが、特に問題は見当たりません。

次ページのグラフをご覧ください。これは男女別年齢別人口のグラフです。

左側のグラフは1991年、㈱日本M&Aセンターが設立された年です。バブル崩壊の年でした。団塊の世代が働き盛りで、20歳以下の世代は減少の一途をたどっており、一度も増加に転じていません。これを見れば2011年のグラフ（右側のグラフ）は容易に推計できたのではないのでしょうか。

団塊の世代の子供は2人ぐらいなので、団塊ジュニア（35～40歳前後）は大きな山を作っていますが、団塊ジュニアの世代の子供は1人。半分に減っています。後継者不足はまだまだ続くと考えられます。

時代を読むとすると、人口統計は先を見通すための有効なデータです。このグラフは総務省統計局が長期にわたって作成・公表していますから、誰でも見ることができます。㈱日本M&Aセンターは、企業の後継者不足が深刻になり、子供への承継を諦めざるをえない未来をいち早く察知していました。そしてその時に向けて、M&Aのノウハウや信用を積み上げてきたのです。



㈱日本M&Aセンターの生産効率をしてみましょう。

	2008	2009	2010	2011	2012
総従業員数	69	81	94	97	111
売上高合計	3,423,052,000	4,009,611,000	3,655,284,000	5,008,810,000	6,005,664,000
1人当たり売上高	49,609,449	49,501,370	38,886,000	51,637,216	54,105,081
売上総利益	2,325,383,000	2,593,013,000	2,216,542,000	3,365,453,000	3,988,214,000
1人当たり売上総利益	33,701,203	32,012,506	23,580,234	34,695,392	35,929,856
経常利益	1,485,804,000	1,651,294,000	1,376,576,000	2,171,329,000	2,834,793,000
1人当たり経常利益	21,533,391	20,386,346	14,644,426	22,384,835	25,538,676

1人当たり経常利益が25,538千円です。売上ではありません、経常利益なのです。なんと素晴らしい数値。

まとめ

あふれる程の情報に困惑させる現代ですが、統計データは使える情報です。今何が起きていて、これからどうなっていくか、客観的数字で捉えることができます。そういう情報を活用して先を読み、行動していかなくてはならないのです。先手必勝です。

編集後記 二十歳の頃、心齋橋で占いをしてもらいました。3つの予言をされましたが面白半分に聞いて気にもせず…。最近ふと思い出してビックリ。3つともその通りになっている！占いは統計に基づくものだと私は思っているのですが、本当に恐るべし統計学。この経営分析も統計学を使っているのですよ。文責MS

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKIビル 4F 猿木真紀子税理士事務所
Tel.06-6631-4570 Fax.06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp